

# かけはし

会報 86 号 発行: 特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人: 井上 育世  
 事務局: 〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415  
 TEL/FAX: 03-6276-8985 E-MAIL: jimukyoku@jpald.net URL: http://www.jpald.net/



## NPO 法人全国 LD 親の会 第 11 回総会 ・ 第 17 回公開フォーラムのご案内

第 11 回総会および第 17 回全国 LD 親の会公開フォーラムならびに研修会、懇親会を下記の日程で行います。総会議案書等は 5 月上旬にメールにて送信いたします。研修会・懇親会等の申し込みについても、別途、ちらしにてご案内いたします。

### ●第 11 回総会

日 時: 2018 年 6 月 23 日(土)13:00~14:15  
 会 場: 愛知県産業労働センター ウィンクあいち  
 5F 小ホール2  
 愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38  
 (JR 名古屋駅より徒歩 5 分)

### ●研修会

日 時: 2018 年 6 月 23 日(土)14:30~16:30  
 会 場: 愛知県産業労働センター ウィンクあいち  
 5F 小ホール 2

テーマ:「親亡き後の課題—自立の課題」

講 師: 鈴木 美登里氏 (社会福祉士、名古屋市仕事暮らし・自立サポートセンター大曾根 自立相談支援員、特定非営利活動法人オレンジの会 理事、全国ひきこもり KHJ 家族会連合会事業委員)

私たち親にとって「親亡き後」への不安は尽きません。漠然と将来を不安がるのではなく、本人が自立するための具体的なライフプランや備えるべきことについて学びましょう。

### ●青年の交流会 「名古屋城・テレビ塔周辺散策」

日 時: 2018 年 6 月 23 日(土) 12:00 集合  
 集合場所: 愛知県産業労働センター ウィンクあいち  
 5F 小ホール 2

復元された「名古屋城本丸御殿」を見学した後、テレビ塔周辺を散策する予定です。ぜひ名古屋にお越し下さい。



### ●第 17 回全国 LD 親の会公開フォーラム

「発達障害者の青年期の現状と課題  
 ～教育から就労への移行支援～」

日 時: 2018 年 6 月 24 日(日) 10:00 ~ 16:30  
 ( 開場 9:30 )

会 場: 愛知県産業労働センター ウィンクあいち  
 5F 小ホール 2 (名古屋駅より徒歩 5 分)

資料代: 一般 2,000 円 ・ 親の会会員 1,500 円  
 定 員: 300 名

#### プログラム

10:00 基調講演 「発達障害のある人への支援を繋ぐ  
 ～豊かな学びと生活と就労に向けて～」

講 師: 柘植 雅義氏  
 (筑波大学教授・日本LD学会理事長)

11:40 「教育から就業への移行の現状と課題」

12:50 行政解説  
 「特別支援教育・発達障害支援施策について」  
 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課  
 課長 中村信一氏

厚生労働省職業安定局 雇用開発部障害者雇用  
 対策課 地域就労支援室 室長 田中 歩氏

14:20 パネルディスカッション

「教育から就労への移行支援について」  
 報告 1 愛知障害者職業センター  
 報告 2 NPO法人障がい者自立支援センターなごや  
 報告 3 名古屋大学 総務部人事課業務支援室  
 報告 4 フジパングループ本社株式会社 人事部

### ●懇親会

日 時: 2018 年 6 月 23 日(土)17:00~19:00  
 会 場: 奥志摩 名古屋中央店  
 会 費: 5,000 円

総会の会場近くのお店で懇親会を開催いたします。全国の仲間と交流を深める絶好の機会ですので、是非ご参加下さい。

## 一般社団法人日本LD学会 第26回大会報告

期 日:2017年10月7日(土)～9日(月・祝)

会 場:栃木県総合文化センター

テーマ:「発達障害の人の社会参加

—大人になって幸せになるために—

10月7～9日 栃木県総合文化センターにて、日本LD学会第26回大会が開催され、教員・支援者・保護者等3,000名もの参加がありました。3日間にわたり、教育講演・大会企画シンポジウム・自主シンポジウム等72講座、ポスターによる研究発表181点がありました。

大会企画シンポジウム「発達障害の人の社会参加—大人になって幸せになるために—」では、全国LD親の会顧問 山岡修氏が「成人期の発達障害者の持つ課題と望まれる支援」のテーマで話題提供されました。発達障害のある生徒の多くは通常の高校に進学しており、在学中・卒業後に社会性・コミュニケーションスキル・就労に必要な基礎能力を身につけるカリキュラム(支援)が必要である。また職場定着のための支援、長期的・継続的な生活相談や支援体制が不足している等、現状と課題についてお話されました。「教育から就業への移行実態調査報告書Ⅳ(全国LD親の会・会員調査)」のデータも引用され、とても説得力のある内容でした。

また、新年度から高等学校での通級指導が開始されることを受け、学会企画シンポジウム「高等学校における特別支援教育」では、京都・沖縄のモデル校の取り組みについて報告がありました。京都T高校では、「ライフスキルトレーニング」という課程で、社会性・コミュニケーションスキル・問題解決力を身につけるためのトレーニング・教科の補充指導を行い、成果(生徒の変容)として「コミュニケーション能力が高まった。」「困ったことに対処できるようになった。」「物事に前向きに取り組むようになり、進路について具体的に意識するようになった。」などが見られたとのこと。課題としては「対象生徒決定の際の本人・保護者との合意形成」「教員の理解啓発・専門性の確保」「進路先との連携」等が挙げられました。高等学校の現場では、0からのスタートで手探りだと思いますが、モデル事業の先進的な取り組みが広がってほしいと思いました。

### 親の会企画シンポジウム

日 時:2017年10月7日(土) 13:30～15:00

テーマ:「発達障害者の教育から就業への移行における  
課題 ～会員調査の結果より～」

司 会 者: 井上 育世(NPO法人全国LD親の会)

話題提供者: 東條 裕志(NPO法人全国LD親の会)

多久島 睦美(NPO法人全国LD親の会)

奥脇 学氏(有限会社奥進システム)

指定討論者: 近藤 武夫氏

(東京大学先端科学技術研究センター)



### 【企画の趣旨】

今年度は、18歳以上の子どもを持つ会員を対象に実施した「教育から就業への移行実態調査」のデータから見えてきた課題、職場における支援方法の実際例などの報告から、発達障害者がどのようなライフステージを過ごしていくのかを考えるシンポジウムを企画しました。当日は会場の定員いっぱいの200名の方にご参加いただきました。

### ○話題提供1 「教育から就業への移行 18歳以上の人のアンケート集計結果」 東條裕志

はじめに、東條理事から「教育から就業への移行実態調査報告書Ⅳ(全国LD親の会・会員調査)」のデータを示しながら、就労の状況(雇用形態・勤続年数・賃金)や障害者手帳の所持状況、中学卒業後の進路・高等教育の状況について報告しました。

- ・過去3回の調査と比べても、障害者枠で就労している人が年々増えている。73%の人が障害の判定や障害手帳を所持していて、そのうち1/3の人が精神保健福祉手帳を所持している。
- ・中学卒業後の進路では、57%の人が高等学校の普通科に進んでいる。半数以上の方が高等教育(大学等)に進んでおり、4年制の大学に進学する人も年々増加し、20%を超えている。しかし、大学へ進学した人でも就労では「就業・一般」より「就業・障害」のほうが多い。
- ・初職が「就業・一般」では約半数の人たちが転職している。(うち20%の人が1年以内で退職。)  
「就業・障害」の場合は継続して働いている人が多く、転職経験があるのは2割以下。
- ・正社員比率は6割。会社に発達障害があることを伝えた人は、就業後に伝えた人を含めても3割に満たない。(発達障害を伝えていないと、合理的配慮を求めるのは難しい。)職場で困った時に、上司等相談できる人がい

ることが重要。

## ○話題提供2 「本人・保護者のエンパワメントへの支援」

多久島睦美

保護者の立場から、本人のメンタルケア・余暇支援・自己理解・支援要請スキルの重要性等についてお話しさせていただきました。親の会の活動も単なる交流・情報交換だけではなく、お互いの体験を共有し励まし合ったりする中で、親も本人も意識が変わり、進路等について主体的に考えられるようになり、エンパワメントに繋がっています。

## ○話題提供3 「発達障害者の教育から就業への移行における課題」 奥脇学

障害者雇用を促進している企業の立場から、就労における現状と課題についてお話しいただきました。

- ・一般企業の障害者雇用担当者・上司も障害について体系的に学んでいる訳ではなく、障害についてほとんど知らない場合が多い。二次障害で体調の波があったりすると、精神障害と混同される場合も多い。上司が対応に悩んだり、なかなか解決できていないのが現状。企業の現場も職場環境を改善しようと努力しているが、配慮のポイントが分からない。
- ・自社で雇用している方もいじめやパワハラで二次障害を抱えているケースが多い。自社では、相談するタイミングを明確にするなどのルールを決めたり、自分の障害について同僚の前で話す時間も設けている。本人の「配慮してほしい」と伝えられる力・相談する力を育てることが重要。『何ができて、何ができないか。こういう配慮をしてもらえないか。』と本人から言ってもらえたら、上司も「それなら、こんな事はできるよね。」と対応でき、お互いウインウインの関係の職場環境を作っていくことができる。

## ○指定討論

障害のある人も大学で学ぶ時代になったが、現状は依然、就労が難しい。雇用関係者から「働く際に最低限必要なこと」として求められる、ビジネスマナーや対人関係の課題をクリアすることが難しいという指摘もあるが、働き方も多様化しており、障害者が働きやすい社会のしくみを作っていくことが必要である。

保護者として「親亡き後の不安」「生活保障の不安」はぬぐえない。周りになかなか理解されない障害・誤解されやすい障害ということで、周囲の差別や偏見が一番の社会的障壁である。生きづらさを抱えながらも、世の中の人を信じる・信じられる社会であって欲しい。また通常の教育に8割の人が進んでいるので、通常の高校や大学でのキャリア教育がさらに進むことを期待している、等の意見が交わされました。

(多久島)

## 親の会紹介ポスター展

ギャラリー棟1階の一角にて全国LD親の会のポスター展示を行いました。参加会、クローバー、ゆずりは、麦、千葉コスモ、にんじん村、きんもくせい、ゆうの会、かたつむり、れんげの会、明日葉、たつの子、おたふく会、翼、あおぞら、らっきょうの花、はあとりんく、トムソーヤ、たけのこ、のこのこ、以上19団体と全国LD親の会のポスターを10枚のパネル上下に貼り、各会のカラフルなポスターで壁一面を彩りました。

それぞれの親の会の活動や様子が掲載されており、会に対する気持ちが伝わってくるものばかり。来場者も大変興味深く読まれていました。近畿ブロックの参加率の高さに脱帽です。「ゆずりは」は初めての展示で、パソコンを得意とする会員の娘さんにイラスト、構成をお願いし、素晴らしいポスターに仕上げられました。

尚、展示されたポスターは、全国LD親の会のホームページに掲載されています。是非、ご覧ください。



## 親の会懇親会

大会2日目の夜17時30分から、会場近くの地産地消推進店「とちぎ家」にて懇親会を開きました。会員25名に親の会企画シポにご登壇頂いた近藤武夫先生をお迎えし、栃木の地産のものを味わいながら、短いながらもお顔が見えるお付き合いの時間を持つことができました。今回は地方開催でしたが、長崎県や徳島県、愛知県など遠方の皆さんも参加してくださり、改めて全国LD親の会の結束力や行動力を感じました。たくさんの参加、楽しい時間をありがとうございました。良かったら、再度、餃子を食べに宇都宮までお越し下さい！！ (石原)

## 日本LD学会 第27回大会(新潟)のご案内

期 日:2018年11月23日(金・祝)~25日(日)

会 場:朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

テーマ:「発達障害のある子どもたちのインクルーシブ教育システムの構築—特別支援教育の10年の成果とこれからを考える—」

## 特別支援教育支援員養成事業

### ●2017年度 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪

2017年度も下記の通り、特別支援教育支援員養成講座 in 大阪を開催することができました。

#### ◆講座の種類

(1)支援員コース [講習:6日間(20科目/28.5時間)]

特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭等の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成

(2)学習支援員コース[講習:8日間(26科目/39.5時間)]

特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭等の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する学習支援、介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成

◆日程:2017年8月27日(日)、9月9日(土)、10日(日)、10月14日(土)、10月21日(土)、11月3日(金・祝)、11月19日(日)・11月23日(木・祝)

◆会場:ドーンセンター エル・おおさか

#### ◆受講者:

学習支援員コース 55名 補講 3名 (修了者 47名)

支援員コース 33名 補講 2名 (修了者 31名)

◆共催:大阪LD親の会「おたふく会」

◆後援:大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・堺市教育委員会



#### ◇◆◆◆◆◆◆◆ 受講者の感想より ◇◆◆◆◆◆◆◆

○行動障害はクラス全体が落ち着けないことで取りあげられることが多いが、「学力を伸ばすこと」が最終目標であり、自信を持たせてあげられるよう勉強したいと思った。

○各方面の方々との連携の大切さとともに、子どもに関わるものとして、気付き力・思いやり力・調整力などアンテナをしっかりと高く掲げて、チームの一員として活動していきたいと思った。

○「社会参加と自立のため」という目標を忘れないようにしたい。

○先生も忙しそうで支援員は遠慮してしまう傾向があるが、「情報は取りに行く」と言われたので、記録しながら連携したいと思った。

○手帳や診断が無くても、指導としては個別支援計画を作っていただけることを知った。

○LD、ADHD、ASDそれぞれの特性を持つ人に見られる優れた能力を知ることができたので、今後それらの特性のある子どもと接するときに褒めるポイントとして注目しやすくなった。

○「感情は受け止めるが、行動は修正する」というお話がわかりやすかった。

○保護者との面談では、こちらのことばかり伝えることが多かったので、保護者さんからの情報をより多く入手できるように傾聴を活用していきたい。

○視覚支援のためのツール(メモやミニホワイトボード)を活用していくことが参考になった。

○英語も来年度から小学校でも必修科目となり、困難さを感じる子どもも増えると思うので、英語の支援についても学ばなければと思った。

○支援が必要な子だけでなく、周りの子たちへの理解をどう進めていけばよいのか、学級作りについて考えていきたい。

### ●2018年度の養成講座開催予定

#### 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪

2018年度も、概ね同じ開催要領で大阪での特別支援員養成講座を開催します。

◆日程:2018年8月25日(土)、8月26日(日)・9月8日(土)、9月9日(日)、10月以降の日程調整中  
(決まり次第、全国LD親の会HPに掲載します)

◆会場:ドーンセンター エル・おおさか

◆定員:96名

◆共催:大阪LD親の会「おたふく会」

#### ボランティア支援員養成講座 in 滋賀

ボランティア支援員養成講座では、学校等で有償・無償のボランティアとして、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある子どもの支援、保護者等に対する相談支援が行える者の養成を目指します。

◆日程:2018年8月4日(土)・5日(日)

◆会場:RiseVille 都賀山 会議室アゼリア

◆定員:50名

◆共催:滋賀LD親の会「トムソーヤ」

※2018年度の講座開催の詳細については、HP等でご確認ください。  
(井上)

## 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDnet) より

韓国の平昌で開催された冬のオリンピック・パラリンピックが終わり、いよいよ、2年後には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。どうしても競技にばかり目が向きがちですが、競技以外のところに発達障害に関係したことがあります。

現在、国が主導的に「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を作成しています。オリンピック・パラリンピックでは、多くの外国人旅行者や障害を持つ人が移動することが予想されます。このため交通機関のバリアフリー化、競技会場やホテル、トイレなどのバリアフリーを目的に、建築物の設計標準が改訂されようとしています。これにはいろいろな障害がある人の意見を取り入れる必要があり、発達障害関係は、JDDnet が代表する形で会議に参加しています。会議の中では、今まで外部のトイレを利用するのが苦手だった人が利用しやすいトイレや、クールダウンができる場所の設置などについても論議されています。異性同伴トイレも設置されるようです。オリンピック・パラリンピックとは直接は関係ないのですが、万一災害が起こった場合に避難・誘導をどうするか、さらに障害のある人のための福祉避難所や福祉避難スペースも検討されています。

また最近一部の企業が「発達障害のある人への対応方法」に関する理解を進めています。発達障害のある人を「お客様」や「人材」として取り込んでいきたい、ということだと思います。そんな中で、発達障害のある人のことをよく知らない企業から、JDDnet に相談や講習などの依頼が来ます。1月14日には、「発達障害のある子のための空港&搭乗体験ツアーin 成田空港」があり、マスコミにも取り上げられました。JDDnet のアドバイスで、子どもたちが安心してできるように冊子を作ったり、不安なときに一人になれる段ボールでできた小さな部屋を用意したりしたこともあり、参加した子どもたちにも好評だったようです。はさみやバリカンが苦手でヘアカットができない人にどのように対応したら良いかを知る、「理・美容師のための『発達障害児・者へのヘアカット講習会』」にも JDDnet が参画しています。

企業の人事担当者向けのセミナーも行っていますが、いろいろなどころからの問い合わせが結構あり、手が回り切れていません。企業が発達障害のある人に「ラブコール」をしている「今」を逃さず、発達障害についての正しい理解を拡げるように、JDDnet の体制整備も行っているところです。(東條)

## 全国特別支援教育推進連盟 より

平成29年12月8日 国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第40回 全国特別支援教育振興協議会が開催され、教員・保護者等260名の参加がありました。(全国LD親の会関東ブロック各会からも多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。)

午前、文科省・厚労省の行政解説に続き、「共生社会の実現に向けたPTAの役割」とのテーマで、小学校・中学校・特別支援学校のPTAの取り組みについて報告がありました。午後からは「学校教育における合理的配慮について」とのシンポジウムで、小学校・高等学校・特別支援学校の実践報告がありました。様々な支援制度が整ってきましたが、クラスメイト等周囲の理解は欠かせません。小中学校・高等学校での「合理的配慮」の具体的な事例を共有し、取り組みを広げてほしいと思いました。

2月9日に開催された理事会では、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 中村課長より、平成30年度特別支援教育関係予算(案)や高等学校における通級による指導の制度化についてご説明いただきました。発達障害関連では、以下のような事業に取り組みられます。

### (1) 切れ目ない支援体制整備充実事業

1. 就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備のため、教育部局と福祉・保健・医療・労働等の部局が連携し一貫した支援体制を構築する。
2. 特別支援教育専門家等の配置  
早期支援コーディネーター・就労支援コーディネーター・発達障害支援アドバイザー・合理的配慮協力員等の配置を拡充する。

### (2) 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援

1. 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上  
①特別支援教育の視点を踏まえた学校経営構築研究開発事業 ②発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業 ③発達障害に関する通級による指導担当教員等専門性充実事業(小中学校だけでなく、高等学校における研修を行う。) ④発達障害の可能性のある児童生徒の多様な特性に応じた合理的配慮研究事業

### (3) 高等学校における通級による指導の制度化の概要

44都道府県で4月から実施。公立高等学校における障害に応じた特別の指導(通級による指導)の制度化に伴う定数の改善を実施する。(多久島)

## 関東ブロック便り

関東全域に13会あります。今回は6会の活動を紹介します。

### 茨城LD等発達障害親の会 「星の子」

星の子が平成29年度の茨城県表彰の功績団体表彰を受賞しました。10月に県庁からもたらされた突然のニュースに、会員一同驚くやら喜ぶやら、メーリングリストやおしゃべり会はいつもとは違う空気に包まれました。

11月13日に茨城県庁で茨城県表彰の授賞式があり、代表と創立メンバーを含め3名で参加してきました。井寺代表(自称ザリガニおじさん)はいつものリラックスした雰囲気はどこへやら、妙な面持ちで大井川知事から直接表彰状をいただきました。「緊張した!!!! 右手と右足を一緒に出して歩いてしまうかと思った」との代表からの受賞報告は会員の笑みを誘い、みんながその場に参加したような一体感を味わわせてもらいました。

今回の表彰は茨城県県政情報誌「ひばり」の12月号にも掲載されました。“長年にわたり、発達障害の子を持つ親を対象に交流会や就労に関する勉強会を実施するなど、発達障害に関する知識の普及・習得に寄与した。”と記載していただいています。

星の子は設立から今年で27年を迎えました。今回の受賞は創立以来の会員の地道な、でも耐えることのない活動が認められた結果だと思っています。このような活動が茨城の発達障害に関する理解を深め、当事者が少しでも過ごしやすい未来の構築のためには必要なことなのだと、今回改めて感じさせていただく出来事でした。

表彰状と盾もいただいて身の引きしまる思いですが、これからも気張らず、無理をせず、楽しみながら星の子の活動をずっと続けていけたらと思っています。

### 「七転び八起き」

#### 群馬子どもサポート「だるまの会」

2012年に発足してから6年目を迎えました。会員数は40名弱と規模は変わりませんが、まとまりのある会で、活動も定着してきました。

キッズ・ジュニアは要望が多いので毎月体を動かすこと・工作・おやつ作り・親の悩み相談などの活動を続けており、ユースは要望に応じ、不定期で食事会を兼ねて相談や情報交換を催しています。

10月は野外活動とし、リンゴ狩りや向井千秋子ども科学館でのレクリエーション等を行ってきています。

11月に行う講演会は恒例行事として定着し、今年度は就労支援事業所の所長を招いて幼児期から行える支援についてお話を伺いました。ここ数年では、作業療法士の先生から子どもの認知と感覚について体の使い方の事を、県教育委員会・特別支援教育課・課長から県の特別支援教育の現状を、小児科医から自閉スペクトラム症状の診断と地域医療の現状や、科学的根拠のある指導支援についてのお話を伺いました。参加者は真剣に聴講し、また活発に質問も行っています。県外の研修になかなか参加できない会員もこの場で学びの機会を得ていると感じています。

今、ジュニアは思春期プラス高校進学に関する悩みが多く聞かれます。通信制高校が1校閉鎖されたため、選択肢の少ない群馬ではかなり厳しい状況になりました。

ユースでは就労後のつまずきで、離職するケースも耳にします。自己理解と支援の両方でどうアプローチしていくか、皆で考えています。

目下、3月に発達障害支援センター主催でのペアレントメンターの研修会に参加予定です。少しずつステップアップです。

### 「3会合同勉強会を開催しました」

#### 東京「けやき」

1988年に設立した「けやき」は、今年で30周年を迎えます。東京都全体とその近隣県の在住者を対象にしていますが、現在の活動拠点は多摩地域(国立市周辺)となっています。東京都からはルピナス(東部)、にんじん村(世田谷区)も全国LD親の会に参加していますので、3つの会で東京都全域が網羅できればいいと思います。平成29年9月にはその3会合同で就労に向けたテーマでの勉強会を開催し、東京障害者職業センターの井口センター長からお話を伺いました。その子にあった「自立」を考える時、就職するだけが全てではありませんが、自信をもって社会人としての生活を送るためにも「仕事をする」ことは大きな意味があると思います。3会合同の勉強会では、学齢期のお子さんの親御さんからの質問に、成人した子どもの親御さんから経験談を伝えたり、アドバイスする場面もありました。これからも「自立応援」を合言葉に協力し合い、交流が深まることを願っています。

さて、今年度の「けやき」は会員数24名。その子どもたちのほとんどは成人し、親の庇護の下から巣立つ年齢になっています。前回(5年前)の「かけはし」への活動報告では親自身の終活をテーマにした例会の様子をお伝えし

たのですが、その後も変わらず「親亡き後」が話題の中心です。子どもはもちろん、親の私たち自身も幸せに生きるために活動を続けようと思っています。

### 山梨LD・発達障害児者の支援を考える会 「いちえ会」

いちえ会は、平成11年に発足し今年で19年目を迎えます。現在会員数26名と小さな会ですが、皆様に支えられてここまで会を継続する事ができました。発足当時は対象が幼児や小学生が多かったのですが、今では青年期となり、教育から就労へと悩みも変わってきています。会の活動として、年に2回ほど福祉の関係の方を招いて学習会を開催し、相談や福祉に繋げたりと支援に結び付けられるよう保護者の支援も行っています。また、月に1回は茶話会を行い、お互い相談や愚痴、情報交換の場として楽しく活動しています。毎年5月には、信州大学こころ診療部の本田秀夫先生を招き、青年期の支援について学び、茶話会で新規の方が来た際には本田先生の言葉がとても参考になり支援に生かしています。山梨の良い所は、とても温かい人間の輪があります。今までのいちえ会の活動に賛同して協力して頂いた教育・福祉の方々が、皆温かい人間関係で繋がっています。最近の新規の方は青年期の方が多く、外部の相談が必要になってくる事が多いです。これからも人間の輪を大切に、支援の輪を増やして活動して行きたいと思っています。

### 静岡県LD等発達障がい児・者 親の会 「きんもくせい」

きんもくせいは、平成元年に設立し今年で29年目になります。西部、中西部、中部、東部の4つの支部活動を中心に、小学生が学習やソーシャルスキルを学ぶ「土曜教室」、親と青年の余暇活動を行う「ホームラン」、手芸をしながら交流をはかる「こもれび」というグループ活動も行っています。

全体でも毎年講演会や勉強会をしますが、平成29年度は11月に地震防災講演会を開催しました。「避難所には行かない」と強調されており、身を守り、家で生活が続けられるよう備えることの大切さを学びました。

平成30年度は、会員アンケートで一番関心の高かったSST講演会を計画しています。中高生の親向けに、SSTとは何かというところからじっくり学びたいと考えています。

4年前に全国LD親の会のサポートツール研修会を静岡

で行いましたが、それをきっかけとして、県主催の合同相談会などにも参加するようになりました。また、県内に3か所ある発達障害者支援センターとの意見交換会も毎年行っています。いろいろな活動をしていくことで、ネットワークが広がっていくと実感しています。

会では、中高生が少なく青年が多いためか活動に参加する会員が限られています。役員の世代交代が難しいなど課題もありますが、会報誌やホームページのリニューアルなども考えています。これからも会員のみながほっとする居場所となるよう、活動していけたらと思っています。

### 「みなが共に暮らす社会に」 埼玉親の会「麦」

埼玉親の会「麦」は今年で創立30年目を迎えました。おかげさまで、現在は保護者である正会員、賛助会員を合わせて100名の会員が在籍しております。長い歴史の中で諸先輩方が様々な働きかけや努力、工夫を重ねてきたことが現在の活動につながっています。年に3~4回理解啓発や保護者自身の勉強を目的として講演会、勉強会を開催しております。会員の子どもの年齢層も小学生から青年期までと幅広いため、講演会もバランスを考え、様々なテーマで開催するように努めています。ちなみに昨年は就労に関するもの、学校選びや子育てにおけるヒント、親亡き後の財産管理などをテーマに講演会を行いました。

また、子どもの年齢により2つのグループに分かれ、交流会や本人活動を行っています。18歳以下のグループでは親子レクリエーションや会員保護者による高校進学に向けての体験談など、また19歳以上のグループでは企業見学や本人向けのビジネスマナーや金融講座等の勉強会を開催するなどしています。その他、おしゃべり会と称して保護者同士の交流会を開き、同じ悩みを持つ親ならではの悲喜こもごもの話でいつも盛り上がっています。

また行政への働きかけとして埼玉県とさいたま市に予算要望事項の提出を毎年行っております。最近仕事を抱える保護者も増え、活動が制限されることも多くなりましたが、工夫しながら会員やその子ども達にとってどのような支援や環境が必要とされるのかを考え、活動していきたいと思っています。

次に「関東ブロック便り」を掲載する際は、3年前に設立したばかりの「学び方の違う子の親の会 ルピナス」を含む残り7会の活動を紹介します。  
お楽しみに！

## ●NPO法人全国LD親の会 活動報告

※活動報告 (かけはし 85 号掲載以降)

2017年

- 9月19日 かけはし 85号発行
- 9月22日 全国特別支援教育推進連盟第3回常任委員会
- 10月05日 全国特別支援教育推進連盟第3回理事会(石原)
- 10月07～09日 日本LD学会第26回大会
- 10月14日 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪(支援員コース・学習支援員コース共通)第4日(井上)
- 10月21日 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪(支援員コース・学習支援員コース共通)第5日(井上)
- 11月03日 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪(支援員コース・学習支援員コース共通)第6日(井上)
- 11月19日 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪(学習支援員コースのみ)第7日(井上)
- 11月23日 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪(学習支援員コースのみ)第8日(井上)
- 12月03日 JDDnet 第13回年次大会(東條・井上)
- 12月08日 第40回全国特別支援教育振興協議会(石原・梶山・水越)
- 12月22日 障害者権利条約パラレルレポート検討会(井上)



2018年

- 1月30日 全国特別支援教育推進連盟第4回常任理事会(多久島)
- 2月09日 全国特別支援教育推進連盟第4回理事会(石原)
- 2月27日 発達障害に関するネットワーク推進会議(井上)

## ●第33回理事会報告

日時:2018年2月4日(日) 16:30-17:00

場所:渋谷区氷川区民会館 集会室

出席者:井上育世・梅野真澄・多久島睦美・東條裕志・水越由起恵

[審議事項]

議案:NPO法人全国LD親の会 第25回評議員会における審議結果の承認

第25回評議員会における審議結果を審議し、出席理事全員一致でこれを承認した。

1. 組織運営に関する審議

①[決議]第11回総会 日時:2018年6月23日(土)13:00~14:15

場所:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 小ホール2

②[協議]第11回総会における定款変更について

2. 事業実施に関する審議

(1)LD等の発達障害に関する研究事業

①[協議]一般社団法人日本LD学会第27回大会での親の会企画シンポジウムについて協議した。

②[決議]「LD等発達障害のある高校生の実態調査」の実施を決議した。

(2)LD等の発達障害に関する理解啓発事業

①[協議]会報「かけはし」86号内容について協議した。

②[決議]第17回公開フォーラム 日時:2018年6月24日(日)10:00~16:30

場所:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 小ホール2

テーマ:発達障害者の青年期の現状と課題 ~教育から就労への移行支援~

③[決議]2018年度特別支援教育支援員養成事業の開催:大阪・滋賀

④[協議]「LD等発達障害のある高校生の実態調査Ⅲ」の発行について協議した。

(3)LD等発達障害のある人及び家族等の支援事業

①[決議]2018年度研修会 日時:2018年6月23日(土)14:30~

場所:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 小ホール2